

2024 年度福岡ブロックアワードエントリーシート

LOM 名	公益社団法人宗像青年会議所	
事業名	公益社団法人宗像青年会議所 2024年度 5月 能登半島地震被災地支援例会 ～一人ひとりの繋がりが未来を創る～	
事業担当者	福井崇郎	
事業担当者連絡先	Tel:08064172157	Mail:t.fukkui@gmail.com
実施に至った背景	<p>令和6年1月1日に能登半島において地震とそれに伴う津波による甚大な被害があり、被災された方々が今までとは違う生活の中、先が見えない状況です。当初5月例会は地域の魅力を再確認する例会を開催する予定でしたが、石川県鶴川地区は人口約600人の小さな集落であるため、支援が後回しにされている現状です。そこで、我々が率先して現地に行き、被災された方々へ少しでも前向きになれるような支援活動を行う必要があります。</p>	
事業の目的	<p>対外への目的は、石川県鶴川地区の被災地の方に、感じている不安を少しでも忘れられるようなひと時を過ごせることを目的としました。</p> <p>対内目的は、石川県鶴川地区で被災された方々に心を込めて被災地支援に携わり、助けが必要な方々に対して、行動することの大切さを学ぶことを目的としました。</p>	
事業の概要	<p>被災された方々の少しでもメンタルケアができるように現地のニーズに合わせた被災地支援、メンバーの参画、被災の現場の共有を以下の流れで行いました。</p> <ol style="list-style-type: none">① 出発式を行い、現地に行けないメンバーも含めて一丸となれるように士気を高めました。② 被災地支援内容は、飲食ブース、縁日ブース、オンライン相談ブース、ケアブースを設けました。飲食やネイルサロン、整体、法律相談など各自が生かせる分野を中心に、子どもからお年寄りまで楽しんでもらえるように工夫しました。③ 活動内容のまとめを解散式で発表しました。その内容も含めてレポート報告を作成し、後日メンバーLINEで配信し、助けが必要な方々に対して、行動することの大切さを伝えました。	

	<p>④ 参加できないメンバーが事業に携われるように各ブースのポップを作り、会場に飾りました。また、参加できないメンバーからメッセージをもらい、本部テントに掲示しました。</p>
<p>広報戦略</p>	<p>(対外)</p> <p>① 公民館主事にチラシデータを送り、回覧板で住民の方に周知しました。</p> <p>② 鶴川公民館にポスターを掲示しました。</p> <p>③ 町内放送で声かけを行いました。(各家庭に受信機があるため、全ての家庭に周知する事ができます。)</p> <p>④ 小学校の運動会でアナウンスをしていただきました。</p> <p>結果、約300名予定でしたが約500名の方が参加されました。</p> <p>(対内)</p> <p>1 審議可決後、全体LINEで案内文およびチラシの送信を行いました。</p> <p>2 各委員長副委員長と連携して出席要請を行いました。</p> <p>3 各委員会へオブザーブし、出席を促しました。</p> <p>4 事前の出欠確認で出席できないメンバーに再度出席要請を行いました</p> <p>結果、3日間と言うスケジュールにも関わらず現地で活動するメンバーが22名参加していただきました。また、オンライン相談ブースでは9名参加し、両方参加できないメンバーもポップの作成や応援メッセージなど今回の例会に携わっていただく事ができました。</p>
<p>実施による工夫</p>	<p>工夫①オンライン相談ブースを設置しました。対内では、現地に行けないメンバーが携わることができます。対外では、手軽に無償で不安に思う事が相談できます。</p> <p>工夫②射的・ヨーヨー釣りをメインにし、将棋・オセロ・けん玉を自由に使えるブースを用意しました。縁日ブースで小さい子供から小学生まで楽しむことができます。</p> <p>工夫③ケアブースを設けお年寄りや女性の方に軽度のマッサージやネイルを楽しんでいただきました。日頃疲れた体を癒し、今の状況ではなかなかできないオシャレを楽しんでいただきます。</p>

	工夫④：被災地支援終了後レポートを作成しグループLINEに送信しました。参加できなかったメンバーも助けが必要な方々に対して、行動することの大切さを学びます。			
事業の参加者	会員数	42名	参加率	80.7%
	対外目標	結果500名 目標想定300名	達成率	167%
事業対象者	(対内) JCメンバー・仮入会者 (対外) 石川県能登町鶴川の方々(全人口約600人)			
開催期間日時	2024年05月17日(金) 18:55~19:20 出発式・セレモニー ※その後、 2024年05月18日(土) 11:30~14:00 被災地支援 2024年05月18日(土) 15:30~16:00 現地見学 2024年05月19日(日) 18:57~19:09 解散式			
開催場所	石川県能登町鶴川公民館 〒927-0302 石川県鳳珠郡能登町鶴川18-128-1 会場選定理由：多くのマスメディアでは、輪島・珠洲が主に取り上げられています。多くの人々は同じような被害があった小さな町の情報を把握するのは困難であり、鶴川地区は人口約600人の小さな集落であるため、支援が後回しにされている現状です。そこで、我々宗像JCが率先して現地に行き、被災地支援を行う必要がありました。			
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 継続			
結果	1. 目的がどのくらい達成できたか ・話しを聞いた方から「久しぶりに友人と顔を合わせる機会があり嬉しかった」「子どもたちを息抜きさせる場がなかった」など多くの方から温かい感想をもらえた。 ・現地で活動したメンバー22名、全員が行って良かったと行動することの大切さを知ってもらうことができました。			

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの98%の人（回答者46名）がレポートを確認して助けが必要な方々に対して、行動することの大切さを学ぶことができた」と回答していた。 <p>2. 上記の結果の想定外の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地で参加できないメンバーから集めた【応援メッセージ】を「公民館にぜひ飾らせて欲しい。」と申し出があり、被災地の方から大変喜ばれました。 <p>3. 上記の結果の確認方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の方にはヒアリングを実施。メンバーにはアンケートを実施。 <p>4. 検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の方には、感じている不安を少しでも忘れられるようなひと時を過ごしてもらい、前向きな気持ちになってもらえました。 ・現地で活動および行けなかったメンバー共に助けが必要な方々に対して、行動することの大切さを学ぶことができました。
<p>LOM や地域社会への影響</p>	<p>石川県能登町鶴川地区と宗像青年会議所との連携が生まれ、お互いに災害等が起きた際には助け合える環境になりました。また、マスメディア等では、輪島・珠洲が主に取り上げられていますが、鶴川地区などの小さな集落がこういった被災状況になっているのかを SNS 等を通じて宗像地域をはじめ、全国各地の人たちに知って貰えることができました。</p> <p>災害支援を契機に災害が起きた際の宗像市の社会福祉協議会などとの連携を強化することができました。今回、駅などで有志で義援金や募金活動を行ったことで、被災地に行くことができなくても、志のある団体に支援することの大切さを理解してもらうことができました。</p> <p>この事業を契機として、災害など助けが必要な方に対して率先して行動できる心得がさらに育まれました。災害が起きた際の社会福祉協議会などとの連携、災害時に炊き出し支援などすぐに対応できる組織力も強化されました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p>	<p>災害時の当事者意識が醸成されたことで、災害が起きた際の初動が早くなります。また、組織として動く際も組織内で連携が取りやすくなり、中長期化した場合の炊き出しの支援やケアのための相談やマッサージなどを自分たちで企画し、他機関と連携することができます。今後、宗像地域以外で災害が起きた際に炊き</p>

	<p>出しの支援やケアとして、現地に赴き、現地のニーズに合わせて柔軟な支援ができます。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>震災だけでなく、洪水や台風などの災害時の理解を深める講習や事業を行なっていくことが必要だと考えます。宗像青年会議所がその際にこういった支援が短中長期的にできるのかのシミュレーションとそのために行動できる準備を行うため、災害想定の場合なども検討していくことも大切だと考えます。</p> <p>震災の被害が近隣をはじめ、他の地域で起きた際の速やかな支援体制に向けて、平次より組織での強化を図り、いざとなった時にすぐに動ける体制を築いていく意識で事業を行うことが必要だと考えます。</p>

<p>事業風景(写真)</p>	
